

協議記録 教科「情報」の指導に関する各校の取り組み

富山県立水橋高等学校 河上 直人

はじめに

11月30日に開催された第54回富山県高等学校教育研究発表大会情報部会において、表題をテーマにした班別協議が行われました。情報が実施されて4年目となり、各校で少しずつ蓄積された経験を基にした取り組みについて、活発な意見交換がなされました。班別協議終了後、全体で各班での協議内容が報告されましたが、授業での工夫点ばかりでなく授業を進めるうえでの悩みなども多くありました。その他の各校共通の話題として、分掌に位置づけられたり非公式な立場で任せられたり形態は様々であるが、教科「情報」の担当者が校内の情報ネットワーク関連の管理者として負担を強いられている現状への問題提起が多く出されました。

新川地区・特殊学校

参加校：泊,入善,桜井,新川みどり野,滑川,上市,雄山,ふるさと養護

各校の教科「情報」の取り組みについて

- ・週2時間のうち1時間を実習、残りの1時間を座学の授業を行っている。
- ・1学期は教室を使用して座学の授業を行ったが生徒の意欲が上がらないので、2学期は実技を増やしたり柔軟に対応して生徒の興味を高めるように工夫している。
- ・授業の前半を実技、後半を座学で行っている。
- ・評価が難しい。座学の指導が難しい。
- ・1学期にHPビルダを使ってWebページを作成した。座学も全てコンピュータ室でプレゼンテーションソフトを利用して行っている。
- ・マルチメディアに関連する内容で学校紹介等の動画作成の授業を計画している。
- ・情報機器のメンテナンスに困難を感じている。実習室のパソコンが故障すると実習の授業に影響が出るので、予備のパソコンが欲しい。
- ・3年生で情報の授業があるが、2・3学年になると文・理系のクラス編成の関係で41人、42人のクラスがあるが1つの実習室には40台のパソコンしかないため対応出来ず、実習に支障を生じている。
- ・必要があれば総合教育センターの支援もお願いしながら授業を進めるつもりである。
- ・「情報」の授業は素材の提供や教材の準備などが必要であるが、他の主教科の授業もあるため「情報」の指導や授業の準備に専念できず、じっくりと取り組む余裕がない。同様に実習で制作した作品や課題の整理やまとめをする時間が取れないので大変負担を感じている。

その他現状や問題点

- ・常にコンピュータ室が使用されていて空き時間がない。担当できる職員をフルに動員して授業をしている。
- ・学校のサーバがダウンした。業者に連絡してもすぐには復旧してくれないのでその間は授業で実習が出来ず、授業に支障が出た。専任のサーバやネットワークの管理者が常駐していないのは都合が悪い。
- ・スカイメニュー等のネットワーク管理ソフトの利用で授業の管理がやりやすくなり、便利である。
- ・授業や実習室以外でも、個人的に学校全体のパソコンやネットワークのメンテナンスを頼まれており、日常的にその対応に追われて大変である。
- ・「情報」の授業担当者が授業以外に学校のネットワークやサーバ、コンピュータ全般の管理を担当させられ、そのその負担が大きい。

富山地区

参加校：八尾,富山,富山中部,富山北部,富山商業,富山いずみ,富山東,富山南,水橋,呉羽

授業の持ち方に関して

- ・校内に情報の免許を持つものがおらず、毎年理科もしくは数学の教諭が臨時免許で対応している。情報科教諭の配置を強く要望する。
- ・チームティーチングを実施しているおり、実習機器に不具合が生じた場合でも授業を進めながら対応できるなどたいへん都合がよい。他にチームティーチングの一方の教諭が「情報」の免許を持たず、実質一人となっている高校もあった。
- ・情報はまだまだ新しい教科であり実習も多く、教材の準備に時間を要している。情報にも実習教諭がいてくれると助かる。

授業内容に関して

- ・教科「情報」スタート当初は「情報A」を実施する学校が多かったが、現在「情報A」は少数派となりつつある。富山地区内では「情報A」から「情報C」に一旦変えたが、その後「情報B」に変えたり、今後「情報B」へ移行しようと考えている。
- ・中学でコンピュータに関して学んできているはずだが、いまだに生徒間のスキル差が大きい。
- ・情報モラルに関して授業の中で指導をしているのだが、生徒の中には他人事のようにとらえてモラルに反する行為をしている場合があり、指導の難しさを感じる。個人情報保護など教科情報の守備範囲がますます広がり、情報の授業の重要性が増していくと思う。教科「情報」は現代の社会における「道徳」のような印象になっている。
- ・3年化学の授業でコンピュータを用いたシミュレーションを実施した。表計算ソフトウェアの使い方を忘れてしまっている生徒が思いのほか多くて時間がかかってしまった。
- ・富山大学推薦入試の一部で情報での実習作品の提出を求められているため、授業計画ではそのことも意識している。

授業以外に関して

- ・情報の免許を持っている者が校内の情報管理者となっている場合がほとんどだが、これはあまりにも負担が大きい。校内のコンピュータの点検も義務づけられてきたがもはや限界を超えている。サーバー等の管理は教員の仕事としてではなく、専門業者に委託してもらいたい。
- ・個人情報保護の観点で学校のコンピュータを点検しても、校内の職員各自が情報管理を意識しないといけない。情報科だけではどうしようもない。
- ・校内でコンピューター利用が一般化するにしたいが、他の先生方からいろいろ質問されたり設定を頼まれたりすることが増え、雑務が激増して困る。

高岡地区

参加校：大門,新湊,高岡,高岡西,高岡商業,伏木,高岡南,志貴野,福岡,氷見,有磯

各学校における取り組み、問題点・工夫

- ・学校間での情報免許取得者数の偏りが大きい...学校によって情報免許取得者が4名いる学校と取得者がいない学校がある。これは、教員の移動によって生じたもので免許外の教諭が授業を担当した場合は、その教科によって情報の授業分野に偏りが生じることがある。県内の学校に均等に配置して欲しい。
- ・情報担当者はネット管理者になることが多く負担がかなり大きい...毎月のウィルスチェックもネット管理者に科せられて負担が大きい。チェック方法について学校全体として取り組むシステムを作るなど、何らかの改善が必要である。
- ・検定とのかかわり...専門教科の情報を行っている学校は検定試験を視野に入れた授業を行っている。そのため、生徒のモチベーションが高く積極的に授業に臨む姿が見られる。普通教科情報で、検定を視野に入れることは、ワープロ検定であれば可能であるが、それ以外は時間数の割に指導の範囲が広すぎて無理があると思われる。
- ・カリキュラム上の問題点...情報2単位を学年で1単位ずつ振り分けられている学校は、考查問題の作成に苦労している。また、実習の進度が学校行事等によって進まずに授業外の課題となるケースもある。その場合、コンピュータ室の管理の問題が出てくる。
- ・コンピュータ実習について...専門教科では、2名で指導するのでトラブルに対処できるが、普通教科では難しいのではないかと。実習で分からない生徒の指導は、分かっている生徒が行えばよい。お互いに教えたり教えられたりすることでコミュニケーションが図られ上達する。

砺波地区

参加校：砺波,南砺総合福野,南砺総合平,南砺総合井波,南砺総合福光,石動

教科「情報」：各学校における取り組み・問題点・工夫

- ・スキルの高い生徒ほど、モラルが低いという傾向にあるのではないかと。スキルの差を意識しながら、情報モラルやマナーに関する指導が重要である。
- ・チームティーチングが有効であると考えられるが、当地区では、授業担当者がほとんど一人であり、理科の実習教諭にあたるような方がおられれば、もっと指導が行き届くと思われる。
- ・実習においては、2コマ連続の授業がたいへん有効である。
- ・「情報」の免許を持っている教員が各校に十分配置されておらず、仮免許申請をして授業している状況であり、改善をお願いしたい。

「ネットワーク管理」等：各学校における取り組み・問題点・工夫

- ・校内ネットワークに私物パソコンが数多くあり、管理を徹底するのが難しい。早急に一人一台体制がとられるようにして欲しい。
- ・生徒用エリアのメンテナンスには、外部委託費用を活用し業務の効率化を図ると良いと思う。
- ・生徒用メールは、良い面悪い面の両面があり、慎重に対処していく必要がある。